

戦後の日本画  
鑑賞ポケットガイド

——日本画編——



かとうえいぞう せきてい  
加藤栄三 《石庭》 1955年  
紙本着彩 179×128 cm

すな いわ  
砂と岩

さらさらとした白い砂。

ごつごつとした岩。

画家はこの二つをうまく描き分けています。

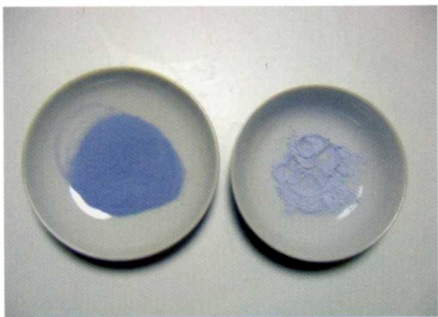
げんせき あら くだ  
原石を粗く砕いた絵の具と

こま くだ  
細かく砕いた絵の具では

色の濃さも、絵の表面の感じも

違って見えます。

粒の大きい左の絵の具にくらべて、粒の小さい右の絵の具は、色がうすくなる。  
(撮影:女子美術大学日本画研究室)



うえむらしょうこう ぼん  
上村松篁 《鵲》 1959年  
紙本着彩 130×194 cm

くう き  
空気

6羽の鳥が、霧か靄の中で

静かに羽ばたいています。

鳥を囲むやわらかな空気。

日本画のつやのない落ち着いた色合いは

油絵の色彩とは違った表現を見せてくれます。



もちつきしゅんこう ち  
望月春江 《地》 1963年  
紙本着彩 107.5×164.5 cm

せん  
線のかたち

線によって現われるもののかたち。

よく見ると、その線の濃さや太さは

さまざまに変化しています。

たよう  
多様な線の表現によって

ひとつのもののかたちが

えが  
描き表わされています。



